

◆ 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 各研究分野指導内容

講座・研究分野・ 指導教授氏名	研究内容及び指導内容
健康解析学講座 医療統計学分野 Biostatistics 佐 藤 俊 哉	(本年度は学生募集しない。)
健康解析学講座 医療疫学分野 Healthcare Epidemiology 山 本 洋 介	医療疫学分野では、医療や健康問題に関するさまざまな疑問（例えば、医療者が患者と接する中で抱いた臨床上の疑問など）を解決するための臨床疫学研究を行っている。特に、健康関連 QoL 尺度を含む患者報告アウトカムを用いて（必要に応じて、その測定に必要な尺度の開発・検証も実施）、把握することが難しい健康状態を可視化することで、医療・社会の問題を明らかにするための研究に取り組んでいる。 なお、医療疫学分野は、エビデンスを生み出す研究のみならず、そのエビデンスと医療実践や社会慣習との間にあるギャップを測定し埋める研究、すなわちエビデンスを診療や社会に繋げる研究をも重視している。当分野は、このような認識に基づき、新時代の医療を臨床疫学研究の手法でもって創造していく意欲のある方々を歓迎する。
健康解析学講座 薬剤疫学分野 Pharmacoepidemiology 川 上 浩 司	臨床疫学研究を推進し、薬剤疫学も標榜する我が国唯一の講座である当教室では、レセプト、DPC、電子カルテ、調剤等の大規模な医療リアルワールドデータ、母子保健や学校健診等の健診情報データベース、健康行動情報といった豊富な基盤をもとに、疫学の手法を用いて様々な診療科領域における臨床研究を力強く実施しています。医療現場や公衆衛生上のリサーチクエストをもとに、医療の有効性や安全性を検討するアウトカムリサーチ、診療実態や医療の適切性評価、母子保健および学校健診情報を用いたライフコース疫学研究、デジタルヘルス研究、政策科学研究など幅広い領域をカバーしています。新医学を志す大学院生や若手研究者をお待ちしております。
健康解析学講座 ゲノム情報疫学分野 Genome Epidemiology 松 田 文 彦	ゲノム情報疫学分野では、高血圧、糖尿病に代表される生活習慣病の遺伝的要因の解明に向けて、ヒトゲノム上に多数存在する遺伝子多型を用いた疫学的スケールの遺伝解析を行う。また、そういった大規模な解析に必須の遺伝子データベースの構築、遺伝統計学解析プログラムの開発を行う。
健康管理学講座 医療経済学分野 Healthcare Economics and Quality Management 今 中 雄 一	医療の「質・安全と経済性」をテーマに医療現場と制度・政策において、問題解決志向の研究・開発を行っており、学術上および実務上の高度な専門性の獲得を目指して教育・人材育成を行う。「問題解決志向」の学際・多領域統合的な分野として、学術研究の遂行と同時に医療の評価と向上のためのシステムや方法論を開発し、社会的・学術的課題の解決に貢献することを目指す。多領域・多機関との連携を図り、膨大なデータベースを構築・解析し発展させ、現実の政策・制度と経営・管理に活用される重要な研究開発成果を数多く挙げてきており、さらに医療機関、地域・まちづくり、国のシステムへの貢献を目指す。 指導時には、個々に重点領域を定めて、①医療の質・安全・公正と経済性の評価（医療の質指標、アウトカムやプロセスのばらつきと要因、費用効果分析、費用効用分析、原価分析）、②医療のマネジメント・システムと経営、③地域など集団レベルの健康、医療の質、医療費と医療資源、④医療制度・システムとその改革、政策関連シミュレーション⑤関連する情報技術・情報基盤、などの領域において教育訓練を行う。 社会的ニーズの高まる当領域の『研究者』の育成に力を入れるとともに、経営幹部候補生を養成する『医療経営ヤングリーダー・プログラム』を人数限定で提供する。 ----- <フィールド医学領域> 健康と疾病とのありよう、とりわけひとの老化の様態について、地球規模の生態学的視点から、異なる自然環境とそこにはぐくまれる習俗、歴史、文化、価値体系とのかかわりのなかから老年医学的研究・教育を行う。東南アジア研究所にてその教員の指導のもと、本邦ならびにアジアの各地に直接赴いて研究を実施する。
健康管理学講座 医療倫理学分野 Medical Ethics 小 杉 眞 司	(本年度は学生募集しない。)

講座・研究分野・ 指導教授氏名	研究内容及び指導内容
健康管理学講座 健康情報学分野 Health Informatics 中山 健 夫	健康情報学は「生・老・病・死に向き合う時、人間を支え、力づけられるような情報・コミュニケーションとは何か？」を問う研究と実践に取り組む。「情報」は量的なエビデンス、質的なナラティブを対象とし、それらを「つくる」「つたえる」「つかう」の視点で捉える。医療者にとどまらず医療の利用者、企業、政策決定者を視野に入れ、個人から社会レベルの意思決定の支援を目指す。主なテーマは Evidence-based healthcare、診療ガイドライン、医療技術評価、ヘルスコミュニケーションなどであり、医療施設、学会、行政・自治体、患者会、NPO、企業など多様なプレイヤーとの協働により新たな共有価値の創造（Creating Shared Value: CSV）を目指す。
健康管理学講座 医学コミュニケーション学 Medical Communication	医療コミュニケーションが主に「患者と医療者の対人コミュニケーション」に焦点を当てているのに対し、医学コミュニケーションは死生観・価値観といった個人内コミュニケーション（ミクロレベル）から、人とのつながりを資本とするソーシャルキャピタル（マクロレベル）といったヘルス領域におけるコミュニケーション全般を扱う。まさに「人が関わればこれコミュニケーションなり」である。また自然科学に立脚した医学だけでなく、社会科学である社会学、コミュニケーション学、障害学からの視野を取り入れて研究を行っている。教員（岩隈）の現在の研究テーマとしては、高齢者と（の）コミュニケーション、エイジズム、障がい者の高齢化・ソーシャルキャピタル、障がい者の「患者体験（PX）」、発達障がい者への支援、シネメジュケーション、混合研究法などに取り組んでいる。
健康要因学講座 環境衛生学分野 Health and Environmental Sciences 西 浦 博	感染症疫学や理論疫学について集中的に技術を学び、それを極めることをコンスレッドにして、環境と健康の関わりに対峙します。新型コロナウイルス感染症をはじめ、突発的な流行が発生した際に、地域・国・世界を代表して集団を守ることでできるエキスパートを育成することを目標にしています。具体的には、①感染症疫学に関する研究、②数理モデルや統計モデルを利用した理論疫学に関する研究、③感染症を中心とする国際的な健康問題、国際保健に関する研究、④リスク解析や人口モデルなど数理モデルの応用研究、⑤環境と感染症の関わりに関する研究、などを中心的な課題として、現場経験と観察データ分析を重視したメンタリングと研究トレーニングを行います。
健康要因学講座 健康増進・行動学分野 Health Promotion and Human Behavior 古 川 壽 亮	（本年度は学生募集しない。）
健康要因学講座 予防医療学分野 Preventive Services 石 見 拓	健康増進、病気の予防・治療から、心停止に対する救急蘇生まで、疾病のあらゆるステージにおける「身近な臨床疑問」を解決し、臨床行動の変化に直結するエビデンスの創出を目指しています。『学問の前では一学徒』をモットーに、適切な方法論を用いて真理に近づくべく、教員・学生の区別なく共に学び研究する姿勢を大切にしています。臨床研究の計画立案から論文化までを学生自身が経験することを重視し、教員による濃密なメンタリングと週 1 回のカンファレンスを実施しています。また、研究成果を社会へ発信する取り組みを推奨・支援しています。
国際保健学講座 社会疫学分野 Social Epidemiology 近 藤 尚 己	健康の社会的決定要因を深く理解し、世界の保健課題の解決に成果をあげられるトップクラスの人材を育てます。貧困・孤立といった個人の社会状況に加え、所得格差やソーシャルキャピタルといったマクロな社会環境、さらに自然災害・パンデミック・経済不況等の「危機」が健康格差へ及ぼす影響などについて、主に計量的な手法で解明します。また、これらの現象理解に基づき、地域や職域での介入研究等により、国・地域・学校・職場など、各レベル・各種のコミュニティ環境を対象とした保健施策、とりわけ健康格差対策に資するエビデンスをつくり出します。アジア・欧米諸国との共同による高齢者の大規模コホート（JAGES）、多様な企業や医療機関等との共同研究を通じて地域包括ケア・健康経営・社会的処方といった諸活動のあり方や健康推進効果・健康格差は正効果を明らかにすべく取り組んでいます。介入研究では個人や組織の行動やマーケティングに関する諸理論を応用すること、また現場での実践とエビデンスの創生を融合させた協創的戦略をとることを重視しており、大学院生には積極的にフィールドに出てもらいます。

◎ 東南アジア地域研究研究所

講座・研究分野・ 指導教授氏名	研究内容及び指導内容
社会生態学講座 環境生態学分野 Environmental Ecology 山 崎 渉	環境中には様々な病原微生物が存在しています。動物を含む環境中の様々な病原微生物によって感染症が引き起こされると同時に、感染症の流行は様々な影響を社会に与え、変容をもたらしてきました。これらの病原体が動物の体内を含む環境中でどのようにして発生したのか、環境中でどのような生態をとっているのか、どのように動物種の壁を越えるのかは不明な点が多いです。当分野では生態学的アプローチを用いて、病原微生物と感染症に関連する様々な要因を解析しています。

◎ 環境安全保健機構

講座・研究分野・ 指導教授氏名	研究内容及び指導内容
健康要因学講座協力分野 産業厚生医学分野 Occupational Medicine 阪 上 優 [環境安全保健機構産業厚生部門]	蓄積されたストレスは、多くの疾患の発病に関与しています。産業医学は、ストレスや疲労からくる疾患の発病予防の最前線でもあります。本研究分野では、「新しい時代の総合ストレス研究」を志し、生物学的・総合的ストレス評価の確立、累積されたストレスの検出機器の開発、職場におけるヒューマンエラーとストレスの総合的予防システム（新時代の労働安全衛生マネジメントシステム）の研究開発、労働安全衛生法および産業保健関連法における健康管理学研究等を行っています。社会医学のみならず、脳科学、臨床医学、基礎医学、臨床心理学、理工系研究室等と連携し、長時間労働等で蓄積された慢性ストレスを学際的に捉えなおすことにより、ストレスに関連する総合医学研究を目指しています。また、本分野の指導教員は全員、現役の京大専属産業医・健康管理医であるため、産業医学・健康管理学に関する豊富な最新情報提供と懇切丁寧なキャリアパスへの支援を心がけています。志のある受験者をお待ちしています。